

令和 5 年 4 月 26 日現在

機関番号：24405

研究種目：挑戦的研究（萌芽）

研究期間：2018～2022

課題番号：18K18541

研究課題名（和文）「女性性器切除」廃絶の学際的研究 - 「ゼロ・トレランス」から「順応的ガバナンス」へ

研究課題名（英文）Interdisciplinary research on abolition of FGM: from "zero-tolerance" to "adaptive governance"

研究代表者

宮脇 幸生（Miyawaki, Yukio）

大阪公立大学・大学院現代システム科学研究科 ・教授

研究者番号：60174223

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 4,900,000円

研究成果の概要（和文）：本研究の研究代表者・分担者は研究期間に、アフリカの調査地においてフィールドワークを実施し、研究成果を論文・学会報告の形で公表した。それと同時に、本プロジェクト以外の国内外の研究者も含むメンバーで研究会を開催し、情報の交換を行った。それによって、FGM研究者のネットワークを作ることができた。さらにこの研究会およびねとワークをもとに、研究成果を日本語書籍、英文書籍として出版した。

研究成果の学術的意義や社会的意義

FGMについてのまとまった研究は日本では出版されることがなかった。本研究プロジェクトでは、FGMの実態とその廃絶についての試みを多面的に論じた論文集を日本語で出版した。さらにアフリカ、東南アジア、オーストラリアの研究者と共同で国際的な研究会を開き、それをもとに英文の論文集を出版した。アフリカだけでなく、アジアのFGMも含めた論文集の刊行は、英文でも本書が初めてである。また公開講演会を開催し、一般にもFGMやその廃絶をめぐる問題について、広く知らしめた。

研究成果の概要（英文）：During this project, the researchers carried out field research and reported and published their results in academic conferences and magazines. They held meetings with domestic and foreign researchers on FGM, exchanged information, and formed a network of researchers of FGM studies. On the basis of this network, two books on FGM studies, one in Japanese, and the other in English, were published.

研究分野：文化人類学

キーワード：FGC FGC 女性器切除 女子割礼 アフリカ ゼロトレランス

科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属します。

1．研究開始当初の背景

FGM/C (Female Genital Mutilation/Circumcision : 女性性器切除 / 女子割礼) はアフリカの広範な地域で行われてきた慣習であり、幼児期～思春期の女性の、外性器の一部あるいは全部を切除する身体加工である。この慣習は、重篤な健康被害をもたらすだけでなく、家父長制社会における女性への人権侵害であるとして、国際的な廃絶運動の対象となっている。WHOは廃絶運動を推進するにあたり、FGM/Cとされる多様な身体加工を厳密に定義したうえで、女性性器に対する一切の加工を許容しないとする「ゼロ・トレランス」の方針を打ち出した。これは「持続可能な開発目標 (SDGs)」アジェンダのひとつとしてとりあげられ、国連は2030年までにFGM/Cの根絶を目指している。こうした流れを受けて、FGM/C廃絶を目指すさまざまな規模の国際 / ローカルプロジェクトがアフリカ各地で活動を展開してきた。ところが、ほとんどの廃絶運動は、いっこうに成果をあげていないどころか、現地社会の拒絶や抵抗により、さまざまな弊害さえ生み始めている。たとえば、高額な罰金や禁固刑という厳罰を伴う法律でこれを禁止したケニアでは、FGM/Cは地下化し秘密裏に行われるようになった。ソマリアではFGM/Cが結婚の条件でもあるが、これが行われなくなったかわりに初潮前の結婚が増加した。エチオピアでは、FGM/Cの廃絶に対して武力抵抗が行われた。なぜこのような問題が生じてきたのだろうか。

2．研究の目的

このような問題が生ずる理由は、現行のFGM/Cの定義は社会的文脈が考慮されておらず、「ゼロ・トレランス」による一律廃絶の方針もこの社会的文脈を欠いた定義に基づいているためである。FGM/Cによる健康被害を科学的に正確に認識することは当然必要であるが、現実の廃絶活動においては、地域の社会・文化的状況やニーズに応じて、グローバルな価値基準をローカライズしなければならず、そのためには現行の「ゼロ・トレランス」による廃絶運動を再考し、柔軟性のあるものに再編する必要がある。本研究はこうした柔軟な方法論を「順応的ガバナンス (Adaptive Governance)」と呼び、これに基づいた廃絶運動の代替モデルを構築することを目的とした。「順応的ガバナンス」とは環境社会学で用いられる概念で、「エコシステム」と「それにかかわる諸個人・諸組織・諸制度」を、さまざまなレベルで結合しようとするものである。エコシステムのみを制御の対象とするリジッドな環境対策は、個人や社会の反応を考慮しないため失敗することが多い。多様なアクターを結びつける「順応的ガバナンス」は、FGM/Cをとりまく問題を解決する方法論としてふさわしいものである。

3．研究の方法

研究は下記のように、文献調査・現地調査・研究会によるそれらの情報の交換と共有を、4つの段階に分けて行うこととした。

<STEP1> 「FGM/C廃絶運動データベース」の構築：《文献調査》

ScopusやUMIなどを用いて文献調査を集中的に行う。また、廃絶活動に対する地域社会の反応の事例を収集しデータベース化する。

<STEP2> 国際的な廃絶運動がローカライズされている事例の収集と分析：《現地調査》

メンバーがそれぞれにエチオピア、ケニア、イギリスで現地調査を実施。廃絶運動が地域の実情に合わせて、いかなる形で、誰により、モディファイされ、その結果、地域社会に受容 / 拒絶されているのか、多様な主体・組織・制度がいかなる形で結びつけられているか / あるいはその必要があるのかを解明する。

<STEP3> グローバルな価値観がローカルな文脈に接合される条件の解明：《研究会》

文献調査と現地調査の結果を精査・検討する。研究者と開発実務家により構成された研究会で、それぞれの観点から分析・議論を行う。

<STEP4> 「順応的ガバナンス」による新たな廃絶運動モデルの構築：《研究会》

「順応的ガバナンス」アプローチによる新たな廃絶運動モデルの構築につなげる。必要に応じて研究会を開催する。

4. 研究成果

本研究プロジェクトは、4人の研究代表者・分担者のほかに、9人の国内外の研究者を加え、文化人類学だけでなく、政治学、地域研究、医学面からも、この問題にアプローチした。3回の国際ワークショップ、21回の研究会の他、参加者たちはこの問題について、学会をはじめとしてさまざまな場で発表を行った。また期間中に、日本語の編著を1冊、英語の編著を1冊出版し、ゼロ・トレランスとは異なる廃絶モデルについて、いくつかの提言を行なった。上記の研究計画に照らし合わせて、実際にどれほどの成果が得られたのかを以下に述べる。

<STEP1> 「FGM/C 廃絶運動データベース」の構築：《文献調査》

文献の収集を進め、研究会でその内容を報告した。しかし FGM/C 廃絶活動に対する地域社会の反応についての総合的データベースを構築するまでには至らなかった。

<STEP2> 国際的な廃絶運動がローカライズされている事例の収集と分析：《現地調査》

このプロジェクトの実施期間中からコロナのために海外渡航が不可能となり、現地調査の実施には困難が伴った。そのために、科研の実施期間を延長した。しかし2022年度の後半には海外渡航が可能となったため、ケニア・エチオピアにおいて現地調査を行った。

<STEP3> グローバルな価値観がローカルな文脈に接合される条件の解明：《研究会》

データベース作成のための資料読み合わせのための研究会だけでなく、このプロジェクトのメンバー以外の内外の研究者を含む研究会も積極的に行なった。研究会には、ケニア・エチオピアを研究する本プロジェクトの日本人文化人類学・政治学研究者だけでなく、ケニアのマサイのFGMを研究する日本人文化人類学者、スーダンのFGMを研究するスーダン系日本人政治学研究者、マレーシアのFGMを研究する日本人地域研究者、マレーシア人医学研究者、オーストラリアのFGMを施されたアフリカ系移民の受け入れを研究するオーストラリア人医学研究者、エチオピアのソマリ系住民のFGMを研究するエチオピア人文化人類学者、グローバルなFGM廃絶運動を研究するスーダン系政治学研究者が参加することになった。数回の国際ワークショップを開催し、情報交換を行い、次の学術出版につなげることができた。

<STEP4> 「順応的ガバナンス」による新たな廃絶運動モデルの構築：《研究会》

多くの研究会を重ねた末に、新たな廃絶モデルの提言を含む学術的論文集を2冊出版することができた。その内容は以下のとおりである。

2021年には晃洋書房から、宮脇・戸田・中村・宮地編による『グローバル・ディスコースと女性の身体 - アフリカの女性器切除とローカル社会の多様性 - 』を出版した。

序章「グローバル・ディスコースとアフリカの女性器切除」（中村）では、WHOの廃絶運動とその地域社会への影響について述べている。第1章「女性器切除は女性の身体・心理にいかなる影響を与えるのか？ - 近年の生理学・心理学的研究を通して - 」（宮脇）では、ここ10年ほどに刊行されたFGMの女性の身体・心理に対する影響に関する研究をレビューし、そのはらむ問題と同時に、その多様性を明らかにしたうえで、廃絶運動のもつ意味を論じている。第2章「国際社会のルールと家父長制社会の規範 - ゼロ・トレランス政策を超えて - 」（戸

田)では、廃絶運動におけるゼロ・トレランス政策の限界を指摘したうえで、それを超える方法としてポジティブ・アプローチを提言している。第3章「変容する女子割礼(FC) - 西ケニア・グシイにおける医療化と儀礼の変化 -」(宮地)では、西ケニアのグシイにおけるFGM(FC)の儀礼的意味と、ケニア政府による廃絶政策のもとで、それがいかに変容し、地下化したのかを論じている。第4章「草の根のFGM/C廃絶運動と地元住民 - ケニア・マサイの事例から -」(林)では、草の根におけるNGOのFGM廃絶活動の実態と、それが伝統的にFGMを行ってきたマサイの住民たちにどのような影響を及ぼしたのかを明らかにしている。第5章「女子割礼/女性器切除をめぐる多様性と柔軟性のエスノグラフィー - ケニア牧畜社会におけるFGM/C廃絶運動の功罪」(中村)では、現在でもFGMが広く行われているケニアの牧畜社会において、女性の就学と近代教育の受容によって、FGMの形態が変化しつつあること、またそれが民族ナショナリズムと結びつけられ、政治的に利用される状況もあることが報告されている。第6章「スーダンにおけるFGC廃絶運動の系譜 - 宗教が果たした役割に着目して -」(アブディン)では、スーダンにおけるイスラーム復興とフェミニズム運動下におけるFGMをめぐる議論とその変化について報告している。

本書は日本におけるFGMを学術的に扱った最初の書籍である。またFGMが女性の身体・心理に対しておよぼす影響に関する最新の研究成果のレビュー、廃絶運動の現在、それが地域社会に及ぼしている影響、そして新たな廃絶アプローチのモデルを提示し、FGMをめぐる議論とその実態・廃絶運動の在り方についての、最新の研究成果の集成となっている。

2023年には、本プロジェクトで行われた国際的なワークショップをもとに、「Female Genital Mutilation / Cutting: Global Zero Tolerance Policy and Diverse Responses from African and Asian Local Communities」(Nakamura, Miyachi, Miyawaki, Toda (eds.))をSpringer社から、ハードカバーの書籍およびオープンアクセスの電子書籍として出版した。

Chapter 1 Introduction (Nakamura)では、WHOの廃絶運動とその地域社会への影響について述べている。Chapter 2 Global Discourse and the Patriarchal Norms of FGM: Beyond the Zero Tolerance Policy (Toda)では、廃絶運動におけるゼロ・トレランス政策の限界を指摘したうえで、それを超える方法としてポジティブ・アプローチを提言している。Chapter 3 What Has Become of FGC After Strict Eradication Campaigns?: Female Genital Cutting and Its Eradication Activities Among the Yellow Bull in Ethiopia (Miyawaki)では、エチオピアの周辺部に住む農牧民が、なぜ政府のFGM廃絶に強く反発し、抵抗したのかを分析している。Chapter 4 Ending Female Genital Mutilation: Progress and Challenges in the Somali Region, Ethiopia (Getaneh)では、エチオピア東部のソマリ系住民におけるFGMの実態とその変化について明らかにしている。Chapter 5 Transformation and Continuation: FGC Among the Gusii People in Western Kenya (Miyachi)では、西ケニアのグシイにおけるFGM(FC)の儀礼的意味と、ケニア政府による廃絶政策のもとで、それがいかに変容し、地下化したのかを論じている。Chapter 6 An Ethnography of Diversity and Flexibility around Female Circumcision and Female Genital Mutilation/Cutting: A Case of a Local Community Response to the Abolition Movement in Kenya (Nakamura)では、現在でもFGMが広く行われているケニアの牧畜社会において、女性の就学と近代教育の受容によって、FGMの形態が変化しつつあること、またそれが民族ナショナリズムと結びつけられ、政治的に利用される状況もあることが報告されている。Chapter 7 Female Genital Cutting in Asia: The Case of Malaysia (Rashid, Iguchi and Afiqah)では、マレーシアにおけるFGM実施の実態が報告されている。Chapter 8 Female Genital Cutting and the “Medical Gaze” in Southeast Asia (Iguchi, Rashid and Afiqah)では、

マレーシアにおいて、FGM に対していかなる医学的な対処がなされるようになり、それが FGM の意味づけにどのような影響をもたらしているのかを論じている。Chapter 9 Healthcare Provision for Refugees and Immigrant Women with FGM Living in Australia (Varol)では、オーストラリアへの FGM を施術されたアフリカ系の移民に対して、オーストラリアの医療関係機関がどのような対応をとり、何が問題となっているのかを論じている。Chapter 10 Autonomy, Bodily Integrity and Male Genital Cutting (Higashi)では、男子割礼やインターセクシュアルに対してなされる施術を含む性器切除がもたらす身体の統合性に対する問題と、それに対する国際的な対応について論じている。

本書は 2021 年に出版された『グローバル・ディスコースと女性の身体 - アフリカの女性器切除とローカル社会の多様性 - 』を一部下敷きに行っているが、それだけにとどまらず、より広範な地域における FGM を扱っている。とくにアジア地域の FGM について言及している点、また現地住民の反応や、移民被施術者に対する移民受け入れ国機関の対応、そして FGM もその一部とする性器切除全般に対する国際的な対処の方向性を論じている点で、世界的にも類書のない意義のある研究成果となっている。2023 年 4 月現在、電子書籍に 6,800 のアクセスがあり、国際的に注目が高い。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計9件（うち査読付論文 2件/うち国際共著 1件/うちオープンアクセス 8件）

| | |
|---|----------------------|
| 1. 著者名 宮脇幸生 | 4. 巻 29 |
| 2. 論文標題 趣旨説明（「変わりゆくアフリカの身体加工と廃絶運動の現在 - 女性器切除という慣習 - 」） | 5. 発行年 2022年 |
| 3. 雑誌名 女性学研究 | 6. 最初と最後の頁 87-111 |
| 掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし | 査読の有無 無 |
| オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である） | 国際共著 - |

| | |
|---|-----------------------|
| 1. 著者名 中村香子 | 4. 巻 29 |
| 2. 論文標題 女性割礼・女性器切除のローカル社会における意味づけと廃絶運動に対する反応：ケニア・牧畜社会の事例から（「変わりゆくアフリカの身体加工と廃絶運動の現在 - 女性器切除という慣習 - 」） | 5. 発行年 2022年 |
| 3. 雑誌名 女性学研究 | 6. 最初と最後の頁 113-127 |
| 掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし | 査読の有無 無 |
| オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である） | 国際共著 - |

| | |
|--|-----------------------|
| 1. 著者名 宮地歌織 | 4. 巻 29 |
| 2. 論文標題 多様化するFGM/FC：ケニア・グシイ社会から見えてくる女性の身体をめぐる問題（「変わりゆくアフリカの身体加工と廃絶運動の現在 - 女性器切除という慣習 - 」） | 5. 発行年 2022年 |
| 3. 雑誌名 女性学研究 | 6. 最初と最後の頁 147-162 |
| 掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし | 査読の有無 無 |
| オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である） | 国際共著 - |

| | |
|---|-----------------------|
| 1. 著者名 林愛美 | 4. 巻 29 |
| 2. 論文標題 東アフリカにおけるローカルなFGM/C廃絶運動について：ケニア西部のマサイの事例から（「変わりゆくアフリカの身体加工と廃絶運動の現在 - 女性器切除という慣習 - 」） | 5. 発行年 2022年 |
| 3. 雑誌名 女性学研究 | 6. 最初と最後の頁 129-146 |
| 掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし | 査読の有無 無 |
| オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である） | 国際共著 - |

| | |
|---|---------------------|
| 1. 著者名 戸田真紀子/ フォーチュネ・バイセンゲ | 4. 巻 第14号 |
| 2. 論文標題 女性の政治参加と家父長制社会の変容—ルワンダと日本との比較— | 5. 発行年 2020年 |
| 3. 雑誌名 現代社会研究科論集 | 6. 最初と最後の頁 22-43 |
| 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし | 査読の有無 無 |
| オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である) | 国際共著 該当する |

| | |
|---|--------------------|
| 1. 著者名 林愛美 | 4. 巻 45号 |
| 2. 論文標題 マサイのローカルNGOによる代替儀礼の分析 「教義」の内容に着目して | 5. 発行年 2020年 |
| 3. 雑誌名 MWENGE | 6. 最初と最後の頁 1-30 |
| 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし | 査読の有無 無 |
| オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である) | 国際共著 - |

| | |
|---|---------------------|
| 1. 著者名 戸田真紀子 | 4. 巻 13 |
| 2. 論文標題 ジェンダーと紛争 - 家父長制社会がもたらす暴力の連続性 | 5. 発行年 2019年 |
| 3. 雑誌名 現代社会研究科論集：京都女子大学大学院現代社会研究科紀要 | 6. 最初と最後の頁 45-68 |
| 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし | 査読の有無 無 |
| オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である) | 国際共著 - |

| | |
|--|------------------|
| 1. 著者名 Kyoko Nakamura | 4. 巻 12(12) |
| 2. 論文標題 Life Story as a Tourism Commodity among the Kenyan "Maasai" | 5. 発行年 2019年 |
| 3. 雑誌名 global-e | 6. 最初と最後の頁 なし |
| 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし | 査読の有無 有 |
| オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である) | 国際共著 - |

| | |
|--|---------------------|
| 1. 著者名 Yukio Miyawaki | 4. 巻 36 |
| 2. 論文標題 How Did the Discourses of Globalized Eradication Campaign Reach Grassroots Communities? Female Genital Cutting and Its Eradication Activities among the Yellow Bull in Ethiopia | 5. 発行年 2018年 |
| 3. 雑誌名 Sophia Journal of Asian, African, and Middle Eastern Studies | 6. 最初と最後の頁 47-64 |
| 掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし | 査読の有無 有 |
| オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 | 国際共著 - |

〔学会発表〕 計25件 (うち招待講演 3件 / うち国際学会 11件)

| |
|---|
| 1. 発表者名 宮地歌織 |
| 2. 発表標題 多様化するFGM(female genital mutilation/female circumcision): 『ゼロ・トレランス』アプローチへの考察 |
| 3. 学会等名 日本国際保健医療学会第35回東日本地方会 (国際学会) |
| 4. 発表年 2021年 |

| |
|---|
| 1. 発表者名 中村香子 |
| 2. 発表標題 ガラスビーズとアフリカの人びと ケニアの牧畜民サンプルの事例から |
| 3. 学会等名 国立アイヌ民族博物館イベント みんなくビーズ研究最前線 (招待講演) |
| 4. 発表年 2021年 |

| |
|---|
| 1. 発表者名 宮脇幸生・戸田真紀子・中村香子・宮地歌織・アブディン モハメド・林愛美 |
| 2. 発表標題 アフリカの女子割礼 (FC)・女性器切除 (FGM/C) とローカル社会の多様性 |
| 3. 学会等名 海外学術調査フォーラム (ポスター発表) |
| 4. 発表年 2021年 |

| |
|---|
| 1. 発表者名 戸田真紀子 |
| 2. 発表標題 アフリカにおける紛争の現状と原因、そして今後の展望：国民を守る政府を求めて |
| 3. 学会等名 日本平和学会 2020年度秋季研究集会 部会6 アフリカにおける「下からの」自立支援 |
| 4. 発表年 2020年 |

| |
|---|
| 1. 発表者名 中村香子 |
| 2. 発表標題 女性器切除 (FGM/C) をめぐる新たなアイデンティティーの形成過程 ケニアの牧畜社会を事例に |
| 3. 学会等名 2020年度立教大学史学会大会 |
| 4. 発表年 2020年 |

| |
|--|
| 1. 発表者名 中村香子 |
| 2. 発表標題 女子割礼 (FC) ・女性性器切除 (FGM/C) と向き合う： < 「文化」か? 「暴力」か? > を越えて |
| 3. 学会等名 津田塾大学学芸学部 多文化・国際協力学科 「フィールドから学ぶ」シリーズ講演会 |
| 4. 発表年 2020年 |

| |
|--|
| 1. 発表者名 Kaori Miyachi |
| 2. 発表標題 "Who Has a Right of Decision Making on Her Body? : Controversy Between Female Circumcision (FC) and Female Genital Cosmetic Surgery (FGCS)" |
| 3. 学会等名 18th AP Conference (2020) |
| 4. 発表年 2020年 |

| |
|--|
| 1. 発表者名 林愛美 |
| 2. 発表標題 ケニア・ナロクにおけるFGM/C廃絶運動の拡大とマサイの女性の参画 |
| 3. 学会等名 日本アフリカ学会第57回学術大会 |
| 4. 発表年 2020年 |

| |
|--|
| 1. 発表者名 Manami Hayashi |
| 2. 発表標題 Complexity of “The Local ” in the Anti-FGM/C Movement of the Kenyan Maasai. |
| 3. 学会等名 18th AP Conference (2020) |
| 4. 発表年 2020年 |

| |
|--|
| 1. 発表者名 戸田真紀子 |
| 2. 発表標題 The Experience of African Women from Birth to Death: Female Infanticide, FGM/C, Early Marriage, Maternal Death or Fistula |
| 3. 学会等名 17th Asia Pacific Conference (国際学会) |
| 4. 発表年 2019年 |

| |
|--|
| 1. 発表者名 中村香子 |
| 2. 発表標題 「コミュニティ・コンサーバンシー」の設置がもたらすコミュニティの分断 - ケニア牧畜社会の事例から |
| 3. 学会等名 日本アフリカ学会第56回学術大会 |
| 4. 発表年 2019年 |

| |
|---|
| 1. 発表者名 Kyoko NAKAMURA |
| 2. 発表標題 Changes in local attitude toward FGM/C under the influence of global “zero tolerance” campaign: A case of a Kenyan pastoral people |
| 3. 学会等名 Reconsidering FGM/C: Challenges from medical and anthropological perspectives (国際学会) |
| 4. 発表年 2019年 |

| |
|---|
| 1. 発表者名 Kaori Miyachi |
| 2. 発表標題 Why anti-FGM Activities are not Changing People's Attitudes? - The Case from Western Part of Kenya |
| 3. 学会等名 17th Asia Pacific Conference (国際学会) |
| 4. 発表年 2019年 |

| |
|--|
| 1. 発表者名 林愛美 |
| 2. 発表標題 FGMの代替儀礼におけるマサイの『新しい』女性像：ローカルNGOによる女性のエンパワーメントについての考察 |
| 3. 学会等名 アフリカ文学研究会 |
| 4. 発表年 2019年 |

| |
|--|
| 1. 発表者名 Manami Hayashi |
| 2. 発表標題 Inheriting Female Genital Mutilation/Cutting in Secret: The Transformation of Cultural Body Modification in Kenyan Maasai |
| 3. 学会等名 17th Asia Pacific Conference (国際学会) |
| 4. 発表年 2019年 |

| |
|--|
| 1. 発表者名 Manami Hayashi |
| 2. 発表標題 An Overseas Researcher 's Observation of the Expansion of the Anti-FGM Movement in Maasai Community in Narok County |
| 3. 学会等名 International Symposium on the Eradication of the FGM/C among Maasai Community in Narok County (国際学会) |
| 4. 発表年 2020年 |

| |
|--|
| 1. 発表者名 林愛美 |
| 2. 発表標題 ケニアにおけるFGM/C廃絶運動についての考察 ナロク州におけるマサイの通過儀礼および住民主体の廃絶運動の調査から |
| 3. 学会等名 学振ナイロビセミナー（招待講演）（国際学会） |
| 4. 発表年 2020年 |

| |
|---|
| 1. 発表者名 Yukio Miyawaki |
| 2. 発表標題 Opening Remarks |
| 3. 学会等名 Reconsidering FGM/C: Challenges from medical and anthropological perspectives (国際学会) |
| 4. 発表年 2019年 |

| |
|--|
| 1. 発表者名 戸田真紀子 |
| 2. 発表標題 国際社会のルールとジェンダー - SDGsとFGM - |
| 3. 学会等名 日本アフリカ学会第55回学術大会 |
| 4. 発表年 2018年 |

| |
|--|
| 1. 発表者名 戸田真紀子 |
| 2. 発表標題 Development Goals and zero tolerance vs patriarchal mindset in the local community in Kenya and the academic societies in Japan |
| 3. 学会等名 16th ASIA PACIFIC CONFERENCE (2018 AP CONFERENCE) (国際学会) |
| 4. 発表年 2018年 |

| |
|--|
| 1. 発表者名 Kaori Miyachi |
| 2. 発表標題 Diversification of “Family Care” for Elderly Women in Rural Kenya : Consideration of Potentials beyond “Family” |
| 3. 学会等名 18th IUAES (International Unions of Anthropological and Ethnological Sciences) World Congress (国際学会) |
| 4. 発表年 2018年 |

| |
|--|
| 1. 発表者名 宮地歌織 |
| 2. 発表標題 Medicalization of “Female Circumcision” and Anti-FGM Activities in Gusii Community, Kenya |
| 3. 学会等名 16th ASIA PACIFIC CONFERENCE (2018 AP CONFERENCE) (国際学会) |
| 4. 発表年 2018年 |

| |
|--------------------------------------|
| 1. 発表者名 中村香子 |
| 2. 発表標題 <女子割礼・女性性器切除> に付与される新たな意味 |
| 3. 学会等名 日本アフリカ学会第55回学術大会 |
| 4. 発表年 2018年 |

| |
|--|
| 1. 発表者名 中村香子 |
| 2. 発表標題 アフリカ牧畜社会のフィールドワーク ~ひと粒のピースから~ |
| 3. 学会等名 シンポジウム「女性フィールドワーカーは語る」(招待講演) |
| 4. 発表年 2018年 |

| |
|--|
| 1. 発表者名 宮脇幸生 |
| 2. 発表標題 CBO (Community-Based Organization) と女性のエンパワメント - エチオピア西南部クシ系農牧民ホルの「女性組合」の事例から |
| 3. 学会等名 日本アフリカ学会第55回学術大会 |
| 4. 発表年 2018年 |

〔図書〕 計10件

| | |
|---|-----------------|
| 1. 著者名 宮脇幸生、戸田真紀子、中村香子、宮地歌織、モハメド・アブディン、林愛美 | 4. 発行年 2021年 |
| 2. 出版社 晃洋書房 | 5. 総ページ数 171 |
| 3. 書名 グローバル・ディスコースと女性の身体 アフリカの女性器切除とローカル社会の多様性 | |

| | |
|-----------------------------------|-----------------|
| 1. 著者名 戸田真紀子 (市川ひろみ・松田哲・初瀬龍平編) | 4. 発行年 2021年 |
| 2. 出版社 晃洋書房 | 5. 総ページ数 250 |
| 3. 書名 国際関係のアボリア - 思考の射程 - | |

| | |
|---------------------------------------|-----------------|
| 1. 著者名 中村香子 (須藤廣・遠藤英樹・高岡文章・松本健太郎編) | 4. 発行年 2021年 |
| 2. 出版社 ミネルヴァ書房 | 5. 総ページ数 217 |
| 3. 書名 よくわかる観光コミュニケーション論 | |

| | |
|---------------------------|-----------------|
| 1. 著者名 中村香子 (池谷和信編) | 4. 発行年 2022年 |
| 2. 出版社 平凡社 | 5. 総ページ数 286 |
| 3. 書名 アイヌのビーズ-美と祈りの二万年 | |

| | |
|---|-----------------|
| 1. 著者名 宮脇幸生、戸田真紀子、中村香子、宮地歌織、アブディン・モハメド、林愛美、東優子 | 4. 発行年 2021年 |
| 2. 出版社 晃洋書房 | 5. 総ページ数 171 |
| 3. 書名 グローバル・ディスコースと女性の身体 アフリカの女性器切除とローカル社会の多様性 | |

| | |
|---|-----------------|
| 1. 著者名 Kyoko Nakamura | 4. 発行年 2020年 |
| 2. 出版社 Langaa RPCIG | 5. 総ページ数 296 |
| 3. 書名 People, Predicaments, and Potentials in Africa | |

| | |
|-----------------------------------|-----------------|
| 1. 著者名 中村香子 | 4. 発行年 2020年 |
| 2. 出版社 京都大学学術出版会 | 5. 総ページ数 336 |
| 3. 書名 生態人類学は挑む Session1 動く・集まる | |

| | |
|--|-----------------|
| 1. 著者名 初瀬龍平、馬場信也、西村謙一、戸田真紀子、中村都、真崎克彦、永澤雄治、吉田晴彦、三上貴教、片岡信之、河村暁雄、上村雄彦、勝間靖、下田道敬、道券康充、車谷卓也 | 4. 発行年 2019年 |
| 2. 出版社 晃洋書房 | 5. 総ページ数 322 |
| 3. 書名 改訂版 国際社会を学ぶ | |

| | |
|---|-----------------|
| 1. 著者名 宮本正興、松田素二、市川光雄、諏訪元、杉村和彦、吉國恒雄、赤阪賢、出口顯、嶋田義仁、福田安志、楠瀬佳子、砂野幸稔、池野旬、戸田真紀子、武内進一 | 4. 発行年 2018年 |
| 2. 出版社 講談社 | 5. 総ページ数 784 |
| 3. 書名 改訂新版 新書アフリカ史 (第11章植民地支配の方程式 2節間接統治のモデル イギリス領西アフリカ, 第15章独立の光と影 3節ネーション・ビルディングの虚構 4節ピアフラ戦争の悲劇) | |

| | |
|---|-----------------|
| 1. 著者名 曾我亨、太田至、北村光二、内藤直樹、杉山祐子、湖中真哉、波佐間逸博、河合香吏、佐川徹、川口博子、目黒紀夫、中村香子、孫暁剛、泉直亮、楠和樹、稲角暢、羽淵一代、関根悠里、作道信介、白石壮一郎、庄司航、松隈俊祐 | 4. 発行年 2019年 |
| 2. 出版社 昭和堂 | 5. 総ページ数 376 |
| 3. 書名 「遊牧の思想 人類学がみる激動のアフリカ」(「『ポーシィ』たちの『旅』の終わり」 観光業に従事する『マサイの戦士』の経験) | |

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

| | 氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号) | 所属研究機関・部局・職 (機関番号) | 備考 |
|-------|---|--|----|
| 研究分担者 | 戸田 真紀子 (Toda Makiko) (40248183) | 京都女子大学・現代社会学部・教授 (34305) | |
| 研究分担者 | 宮地 歌織 (Miyachi Kori) (40547999) | 静岡大学・男女共同参画推進室・助教 (13801) | |
| 研究分担者 | 中村 香子 (Nakamura Kyoko) (60467420) | 東洋大学・国際学部・教授 (32663) | |

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

| 共同研究相手国 | 相手方研究機関 |
|---------|---------|
| | |